

# 布施の心

本多 克也

文・徳永 耕一

【宮崎輝様】

食事が終わるのを見計らって、秘書課長が入ってきた。

「それではどうぞ、まいりましよう」

上階の立派な部屋に通されると、そこには優しそうだがきちんととした身なりの、見るからに地位が高そうな方が待っていた。それが、他でもない宮崎輝（かがやき）さんだった。

「どうぞ、座りなさい」

言われるままにふかふかのソファに座ると、次々と質問が飛んできた。

「山田村から来たのか」

「ほい」

「受験はダメだったのか」

「ほい」

「それじゃあ、アルバイトしながら小さな声で答えた。

「いいえ」

「住むところはあるのか」

「ほい」

「住むところはあるのか」

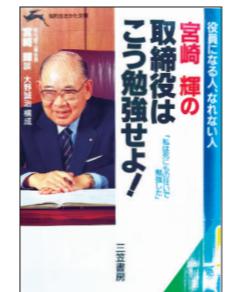
「ほい」

「いいえ」

「東大宇宙研究所に連絡して、仕事をあてがつように」「住むところも、近くで下宿を探してあげなさい」

東大宇宙研究所の仕事は、夜間18時から朝の6時までのデータ計測のアルバイトだった。当時、旭化成工業と東大宇宙研究所は関係が深かったようだ。

こうして、宿無し寸前の私は、住むところも確保できたうえに、仕事までいただけた。



「宮崎輝の取締役はこう勉強せよ!」三笠書房  
2023年3月本多産業株式会社は  
設立50周年を迎えます。

 本多産業株式会社

【本社】神奈川県横浜市戸塚区戸塚町3814  
TEL:045-869-1133  
【長崎工場】長崎県雲仙市吾妻町布江名677  
TEL:0957-38-3520

それにしても、たった一通の手紙がこんなにも人の運命を左右するものだろうか？！

まだその頃の私には世の中の仕組みが十分理解できていなかった。

しかし、後に分かったことは、一通の手紙の背景には、故郷の宮崎輝先生の生徒にかける深い思いやりと、弟宮崎輝さんの兄や故郷を思う気持ちと、そして少しだが、私の祖父と宮崎家との関わりなど、複合的な要因が重なり合っていたということだ。

事態が落ち着いてひと息ついたとき、母がよく言つていた言葉が鮮明に思い出された。

「人様にはよせんばよ」

その言葉は、その後終生肌身離れない言葉になつた。

一方で、事がうまく運んだ裏には、間違いなく「運」もあつた。

もし、宮崎さんを訪ねて行った時不在だったらどうなつただろうか？！すこしごと旭化成工業の本社を引き上げて、仕事もなく、住むところもままならず、気力も失せて東京砂漠を彷徨う羽目になつっていたかも知れない。

秘書の方もその時言つていた。「あなたは運の良い方だね」ところで、一九五五年頃から日本の繊維産業は年々力をつけて、アメリカの繊維業界からシェアをどんどん奪つていった。

そのため、日米間の摩擦が始まり、宮崎輝さんも日米間の調整のために度々海外に出張していたようだ。

ちなみに、日米繊維戦争は戦後の日米間に起つた最初の貿易摩擦で、これを端緒として、この後数次にわたつて自動車などいろいろな産業について、日米貿易摩擦が頻発した。